



HIROSAKI
UNIVERSITY



弘前大学

医学部 保健学科

School of Health Sciences

大学院 保健学研究科

Graduate School of Health Sciences

HIROSAKI
UNIVERSITY2024

たゆまぬ探究心と高度な専門知識を身につけ、
保健医療の一翼を担いながら社会で貢献できる人になる。



Contents

- 02 保健学科長／保健学研究科長 挨拶
- 04 機構図／本学科・研究科の沿革／本学科の目的および使命

弘前大学医学部保健学科

- 05 医学部保健学科5専攻の概要
- 06 看護学専攻
- 07 放射線技術科学専攻
- 08 検査技術科学専攻
- 09 理学療法学専攻
- 10 作業療法学専攻
- 11 教育課程
- 13 都道府県別入学人数／卒業後の進路／1年間の行事
- 14 地域別就職先

弘前大学大学院保健学研究科

- 15 各領域の紹介
- 16 大学院保健学研究科博士前期課程（修業2年）
各領域の指導教員と研究テーマ
- 20 大学院保健学研究科博士後期課程（修業3年）
各領域の指導教員と研究テーマ
- 24 教育体制の特色
- 25 研究体制の特色・学校支援
- 26 所在地
- 27 本学部・研究科のポリシー



保健学科長 齋藤 陽子
保健学研究科長

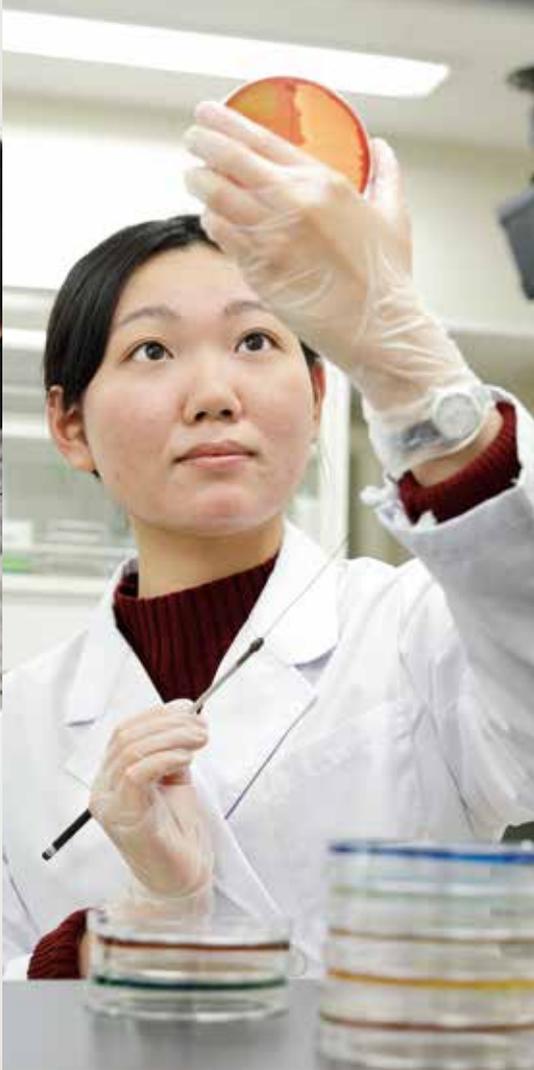
学科長／研究科長 挨拶

弘前大学医学部保健学科は平成12年10月に設置され、約20年の歴史の中で、その役割・成果を上げてきております。平成17年4月に弘前大学大学院医学研究科保健学専攻（修士課程）を設置いたしました。平成19年4月には博士後期課程の設置とともに、大学院保健学研究科として独立・部局化したしました。この様な歩みの背景には、少子高齢化社会を迎えた我が国における保健医療の担い手の育成およびその教育と研究の基盤強化を図ることが喫緊の課題として顕在化した事があります。一方、保健・医療分野では、遺伝子医療や再生医療の発展に見られるように細分化や融合化が進むなか、生活習慣病の対策や地域包括ケアの構築が進められるとともに、生活の質を重視した健康観が求められております。

弘前大学医学部保健学科では、社会の需要に応えるための人材育成を目標として掲げ、学生と教職員とが共同で取り組みを行っております。保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を有し、国立大学の医療系学部の中でも最大規模です。また、弘前大学における学科としても最大規模で、5学部から構成される中規模総合大学の一つである弘前大学の一翼を担っています。令和2年度に設置された医学部心理支援科学科の教員や学生も同じ校舎で共に学習や研究を行っています。本町キャンパスには他に、医学科・医学研究科があり、多職種連携を図る上でも大変理想的な環境です。また、保健学科は弘前大学医学部附属病院と隣接しており、実習環境も非常に充実しております。医療職者を目指して保健学科と一緒に頑張ってみませんか？

弘前大学大学院保健学研究科は平成28年4月に組織改編を行い、現在は博士前期課程・後期課程ともに、看護学領域、放射線技術科学領域、生体検査学領域、総合リハビリテーション科学領域の4領域で構成されております。博士前期課程では管理実践能力をもつ指導者・高度専門職業人の育成、博士後期課程では高度な専門的知識を持つ教育研究者の育成を目的に掲げ、社会に貢献する人材を育成しております。平成22年度からは、博士前期課程に「被ばく医療コース」を設置するなど、緊急被ばく医療に対応できる医療職者の養成も行っております。東日本大震災に続発した原子力災害に保健学研究科教員による支援活動を行う事ができたのは、この様な取り組みの成果です。さらに、平成26年からは博士前期課程に「放射線看護高度看護実践コース」を設置し専門看護師の養成に取り組むとともに、博士後期課程にも「被ばく医療コース」を設置し、放射線にかかわる被ばく医療の高度な教育者や研究者の養成を目指し、教育・研究を推進しております。

保健学科・保健学研究科は、保健医療の一翼を担いながら社会で活躍したい、社会に貢献したいという皆さんの入学を心から歓迎いたします。



チーム医療に必要な、人間性と倫理性を兼ね備えた、医療従事者を育てる。



本学科の目的および使命

【医学部保健学科】

近年、医療が高度化・複雑化し、医療従事者が備えるべき知識や技術は膨大なものになっています。また、医療職の専門分化によって、患者や医療従事者との関係が断片的なものになっているばかりでなく、医療従事者相互間のコミュニケーションも困難になってきました。一方、わが国では、老年人口の急激な増加に伴って慢性疾患の増加や介護を必要とする高齢者が増加する環境に、在宅医療や訪問看護の実施の他、介護保険制度も発足して病院のみで医療が実施される時代ではなくなってきています。また、先の東日本大震災の教訓から不測の事態に備え緊急時医療対応の準備をする必要があります。

このような背景を有する社会の要請に的確に応えるため、本学は、高度な医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できるメディカルスタッフの育成をユニークなカリキュラムによって行ないます。

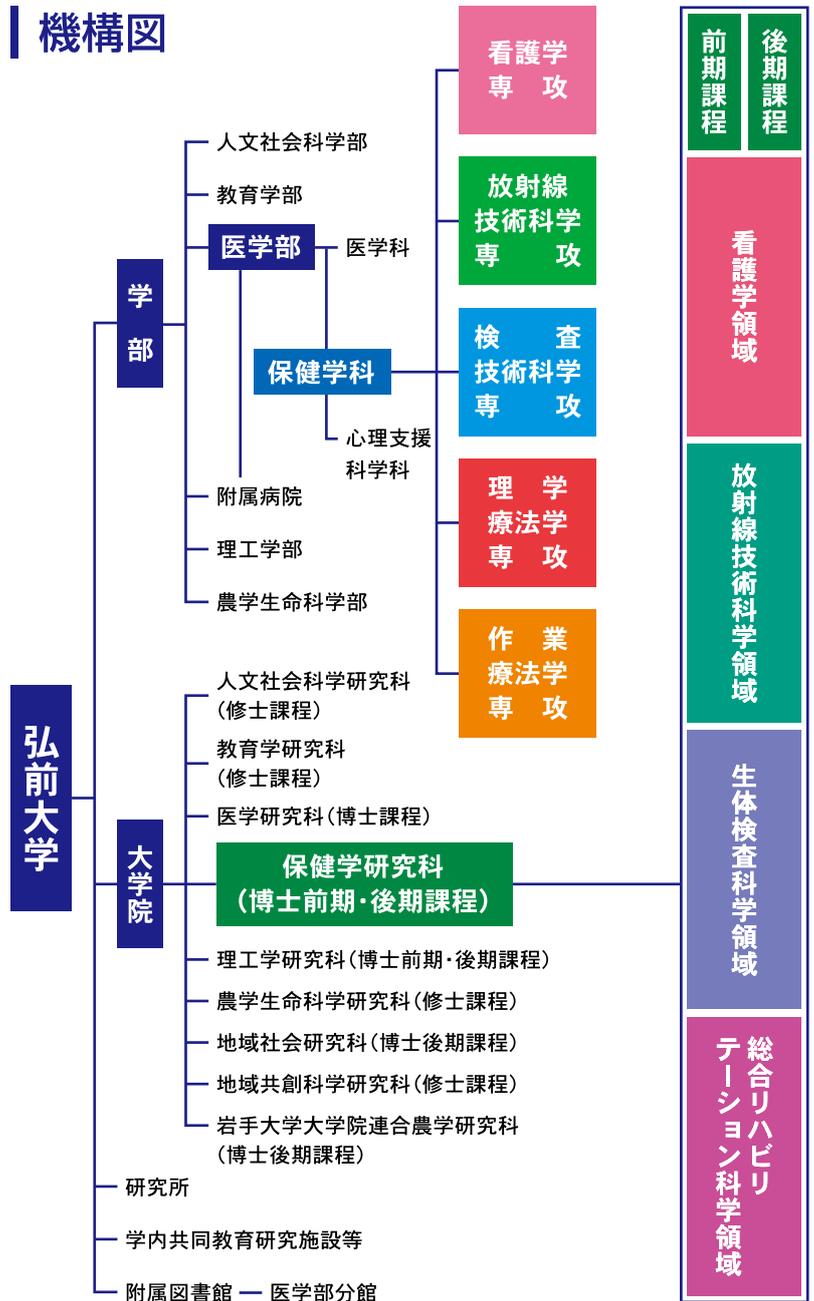
【大学院保健学研究科博士課程】

大学院保健学研究科保健学専攻博士課程では、保健学における教育と研究を通してその成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念としております。

博士前期課程では、学部教育をさらに発展させ、保健学の領域における教育と研究を通して知的財産を創造・蓄積するとともに、実践の場でリーダーシップを発揮し、指導的役割を果たすことのできる“メディカルスタッフ”の育成を目標とします。

さらに博士後期課程では、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けた独創的・学際的な研究を自立的に進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた教育者・研究者を育成することを目的とします。

機構図



本学科・研究科の沿革

本学部局は国立大学法人弘前大学医学部保健学科と同大学院保健学研究科(博士課程)から構成されており、医療技術者教育及び教員・研究者養成機関として長い歴史と伝統があります。

昭和50年	4月	国立弘前大学医療技術短期大学部設置
平成12年	10月	国立弘前大学医学部保健学科設立
平成16年	4月	国立大学法人弘前大学医学部保健学科設立
平成17年	4月	国立大学法人弘前大学大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)設置
平成19年	4月	国立大学法人弘前大学大学院保健学研究科(博士課程)設置(既設の「修士課程」は「博士前期課程」として改組)

医学部保健学科5専攻の概要

看護学専攻

●修業年限／4年 ●入学定員／80名
●3年次編入学定員／10名^{※3}

●取得学位／学士(看護学)

●国家試験受験資格等^{※1}

看護師 保健師^{※2} 助産師^{※2}
高等学校教諭一種免許状(看護)^{※2}

●入学者選抜方法(令和4年度入試)

一般選抜(前期日程)
総合型選抜
社会人入試
私費外国人留学生入試

個別学力検査、小論文
出願書類、小論文、面接
小論文、面接
小論文、面接

放射線技術科学専攻

●修業年限／4年 ●入学定員／40名
●3年次編入学定員／5名^{※3}

●取得学位／学士(保健学)

●国家試験受験資格等^{※1}

診療放射線技師

●入学者選抜方法(令和4年度入試)

一般選抜(前期日程)
総合型選抜
私費外国人留学生入試

個別学力検査
出願書類、小論文、面接
小論文、面接

検査技術科学専攻

●修業年限／4年 ●入学定員／40名
●3年次編入学定員／5名^{※3}

●取得学位／学士(保健学)

●国家試験受験資格等^{※1}

臨床検査技師 細胞検査士^{※2}
食品衛生管理者及び食品衛生監視員^{※4}

●入学者選抜方法(令和4年度入試)

一般選抜(前期日程)
総合型選抜
私費外国人留学生入試

個別学力検査
出願書類、小論文、面接
小論文、面接

理学療法学専攻

●修業年限／4年 ●入学定員／20名
●3年次編入学定員／5名^{※3}

●取得学位／学士(保健学)

●国家試験受験資格等^{※1}

理学療法士

●入学者選抜方法(令和4年度入試)

一般選抜(前期日程)
総合型選抜
社会人入試
私費外国人留学生入試

個別学力検査、小論文
出願書類、小論文、面接
小論文、面接
小論文、面接

作業療法学専攻

●修業年限／4年 ●入学定員／20名
●3年次編入学定員／5名^{※3}

●取得学位／学士(保健学)

●国家試験受験資格等^{※1}

作業療法士

●入学者選抜方法(令和4年度入試)

一般選抜(前期日程)
総合型選抜
私費外国人留学生入試

個別学力検査、小論文
出願書類、小論文、面接
小論文、面接

入学定員合計 200名

3年次編入学定員

合計30名

※1受験資格を得るためには、指定する授業科目の修得が必要 ※2選択により可能(但し、履修人数に制限あり)

※3修得する単位数もしくは取得を希望する資格等によっては、履修期間が3年以上になることもあります。

※4選択により可能。

●入学者選抜方法等に関する詳細は、本学が発行する学生募集要項等でご確認ください。

●最近の入試の結果は弘前大学ホームページにてご覧いただけます。

【学生募集要項等の照会先】〒036-8560 弘前大学学務部入試課 電話0172-39-3122

看護学専攻

Department of Nursing

看護の技とまなざしを育み、病む人の真の力になれる人材の育成。

教育の目的

看護は、あらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和等を行い、その人らしく生を全うできるように、自律的・協働的に支援する活動です。人間の生存、成長・発達、健康は、環境と密接に関連することから、看護学を、人間、環境、健康、看護の4つの主要概念でとらえます。これらの考えを基盤とした深い対象理解、優れた看護実践力、および看護の専門性を追究できる能力を持ち、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。そのため本専攻では、看護の対象を理解し、根拠に基づき主体的・創造的に看護を実践できる能力を養い、教育・研究能力の基礎を備え、専門職として自ら学び続けることのできる能力を培うことを教育の目的としています。

教育目標と関連科目

- 人間や生命に対する畏敬の念、倫理観や看護の対象への深い洞察力を育てます。
【関連科目】保健学概論、コミュニケーション論、看護対象論、看護倫理学等
- 看護実践の根拠となる理論を踏まえ、主体的・創造的に看護を実践できる基礎的・専門的能力を育てます。
【関連科目】看護学概論、基礎看護学・成人看護学・小児看護学・母性看護学・老年看護学・精神看護学・地域・在宅看護学・公衆衛生看護学の基礎となる概論・方法論・演習・実習等、セルフケア論、クリティカル・ケア論、がん看護論、セクシュアリティ論、家族看護学等
- 保健医療福祉などの多職種と連携・協働できる広い視野と調整能力を育てます。
【関連科目】保健学概論、社会福祉学、医療リスクマネジメント、多職種連携演習等
- 看護における教育的能力の基礎を育てます。
【関連科目】看護教育学概論、看護教育方法論、看護教育学演習等
- 社会的ニーズの変化に主体的に柔軟に対応できる能力を育てます。
【関連科目】社会福祉学、地域保健学、医療情報学、社会保障論等
- 看護学を探究し創造できる研究能力の基礎を育てます。
【関連科目】卒業研究、保健統計学
- 国内外の社会情勢や地域の実情をふまえ、看護学の発展を目指し自ら学び続ける力を育てます。
【関連科目】看護学概論、看護教育学概論、基礎看護学・成人看護学・小児看護学・母性看護学・老年看護学・精神看護学・地域・在宅看護学の演習、コミュニケーション実習・地域コミュニケーション実習、統合実習等



血圧測定の様子

【卒業後の進路】

- 看護師（医療機関、福祉施設、保健施設、事業所等）
- 保健師（市町村保健センター、保健所、医療機関、企業、学校、保健施設等）
- 助産師（医療機関、助産所、保健所、市町村保健センター、事業所等）
- 高等学校の教員（看護科、総合学科、福祉学科等）
- 教育・研究施設
- 大学院進学

看護技術演習の様子



放射線技術科学専攻

Department of Radiological Technology

放射線を利用した高度な医療技術と、深い専門性を兼ね備えた人材の育成。

教育の目的

医療技術が日々目覚ましく進歩を遂げている中で放射線技術は診療に重要な役割をもっていることから、本専攻の教育課程は放射線の基礎から高度な専門分野までの幅広い知識を確実に修得できるように配慮されています。

さらに、実際の病院実習を通して最新の医療技術を学び、チーム医療の一員として医師を含め他の医療技術者と協調して活躍できる実践的な能力を持つ診療放射線技師の養成を目指します。

教育目標と関連科目

- 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを理解する。
【関連科目】保健学概論、人体形態学、人体機能学、画像解剖学等、臨床関連基礎医学等
- 専門基礎の学力向上を目指し、各種現象を科学的に説明する能力を身につける。
【関連科目】放射線物理学、放射化学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学等
- 最新の各種診療放射線機器の原理と構造を理解し、画像処理や情報処理技術を習得する。
【関連科目】解析学、医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ、医療情報学、診療画像機器学Ⅰ・Ⅱ、放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等
- 撮影画像を理解し、正常・異常所見ならびに緊急対応を要する画像所見を判断できる力を身につける。
【関連科目】臨床画像学、診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ、実践臨床画像学、核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ等
- 修得した専門基礎を臨床現場にて確認して実践する。
【関連科目】臨床実習Ⅱ・Ⅲ
- 大学院を視野にいれ、放射線技術科学の考察力を深めると共に研究遂行能力を身につける。
【関連科目】医学英語演習、卒業研究等

ファントム撮影実習



講義風景

【卒業後の進路】

- 大学院進学
- 医療施設就職
(病院・検診センターなど)
- 放射線管理施設就職
- 各種放射線機器関連メーカー就職

【取得可能な(目指す)免許・資格】

- 診療放射線技師
- 第1種放射線取扱主任者
- 医療情報技師(学会認定)
- 医学物理士(大学院進学希望者)



検査技術科学専攻

Department of Medical Technology

高度な医学専門知識を持った臨床検査技師と生命現象の解明を目指す研究者の育成。

教育の目的

遺伝子関連領域をはじめとする高度に専門化した医学検査に対応できる知識と技術を備え、問題解決に対する判断力および応用力、創造的知性を有する人間性豊かな臨床検査技師の養成を目指します。

さらに総合科学としての学問を追究する研究者の育成、臨床検査技師教育者の養成、チーム医療の一員としての協調性を備えた国際的に貢献できる人材の育成に努めます。

教育目標と関連科目

- 生命現象を総合的に理解し、医学・医療における検査基礎を学習する。
【関連科目】情報工学概論、医療リスクマネジメント、人体形態学、人体機能学、人体病理学、微生物学総論Ⅰ・Ⅱ、衛生学・公衆衛生学、基礎栄養学、生化学等
- 検体検査、形態学検査、生理学検査、および病因・生体防御検査の知識・技術を修得し、臨床検査技師に必要な実践力を養う。
【関連科目】一般検査学、臨床化学検査学、医用生体工学概論、臨床血液検査学、臨床免疫学、臨床微生物検査学、臨床ウイルス学、臨床生理学Ⅰ-Ⅳ、病理組織細胞検査学、内科学Ⅰ-Ⅲ、臨地実習Ⅰ-Ⅳ等
- 大学院を念頭に置き、学生の関心に応じて学習を進める。
【関連科目】分子生物検査学、分子・超微形態学、国際医療検査学、緊急・特殊医療検査学等
- 食品衛生監視員・管理者任用コースを開講(令和4年4月)し、食品衛生監視員・管理者任用資格取得のため、食の安全に関する教養と応用力を高める。
【関連科目】検疫衛生学、検疫衛生学演習
- 細胞検査士養成課程を開講(平成21年4月)し、細胞検査士に必要な知識、技術力を養う。
【関連科目】細胞診断学講義Ⅰ-Ⅲ、細胞診断学演習Ⅰ-Ⅴ、細胞診断学実習Ⅰ-VIII等

(関連科目は2022年4月から新カリキュラムとなりました)



微生物学実習の様子

【卒業後の進路】

- 大学院進学
- 病院(大学病院、地方公務員など)
- 検査センター・検診センター
- 製薬会社 ● 研究機関
- 公衆衛生施設
- 臨床検査機器メーカー・試薬メーカー
- 臨床検査技師関連認定資格職種
(治験コーディネーター、胚培養士、超音波検査士等)

【取得可能な免許・資格】

- 臨床検査技師 ● 細胞検査士
- 食品衛生管理者 ● 食品衛生監視員

検体採取の実習風景



理学療法専攻

Department of Physical Therapy

豊富な知識と技能を身につけた、実践能力の高い理学療法士の育成。

教育の目的

理学療法は身体障害者や病気・ケガなどによって運動機能が低下している人々がより豊かに社会生活を送れるように運動や温熱・超音波、義肢装具などの様々な物理的手段を科学的に用いて、運動および姿勢・動作と関係する諸機能の回復・維持を図る治療法です。最近では、介護予防あるいは障害予防という観点から、中高年者の転倒予防や健康増進、スポーツ選手のコンディショニングなども理学療法の重要な役割となってきています。

本専攻では人間の体の構造と働きと運動および姿勢・動作についての知識を深め、運動機能の低下または障害とそれらに起因する生活上の問題を分析・解決する技能を養い、さらにこれらの知識および技能を障害の軽減に加えて健康の維持・増進やスポーツ場面にも広く応用できる人材の育成を目指します。

教育目標と関連科目

- 障害(者)の存在そのものを受容し、人間の喜びや苦しみを感じとれること。
【関連科目】保健学概論、保健医療福祉倫理学、コミュニケーション論、理学療法学総論、理学療法管理学、臨床心理学等
- 人間の体の構造と働きと運動および姿勢・動作を理解すること。
【関連科目】人体形態学、人体機能学、運動学、神経系障害学、小児科学、老年期障害学、精神医学、筋骨格系障害学、内科学、がんりハビリテーション科学等
- 実践的な問題解決能力と治療技術を身につけること。
【関連科目】リハビリテーション医学、理学療法評価学、運動療法学、物理療法学、義肢装具学、日常生活活動分析学、福祉住環境学、福祉機器適合論、地域リハビリテーション概論、スポーツ障害理学療法学・実習、筋骨格系障害理学療法学実習、脳障害理学療法学演習・実習、内部障害系理学療法学演習・実習、各種セミナー、臨床実習等
- 常に問題意識をもち、自己研鑽に努めること。
【関連科目】基礎ゼミナール、理学療法研究方法論、理学療法研究演習、卒業研究

足底接地状況の観察風景



足部形態・機能評価の実習風景

【卒業後の進路】

- 病院、診療所
- リハビリテーションセンター
- 老人施設(介護老人保健施設、介護老人福祉施設など)
- 小児療育施設
- 身体障害者福祉関連施設
- 教育・研究施設
- 地方自治体(保健関係部局、保健所)
- 保健・福祉関連の一般企業
- 訪問介護ステーション
- 大学院進学



作業療法学専攻

Department of Occupational Therapy

全人的視点を持ち、実践能力の高い作業療法士の育成。

教育の目的

作業療法は、精神的および身体的病気や加齢などによって精神機能や身体機能に障害を持った人々に対して、様々な作業活動を用いて主体的生活を営む能力の獲得を図る治療法です。

本専攻では、リハビリテーション医学を基幹に、心理学、社会学、地域リハビリテーションなど幅広い人間科学体系を学び、治療訓練、障害予防、行動評価、臨床実習、さらに健康の維持・促進のための知識・技術を身につけた、実践能力の高い作業療法士の育成をします。

教育目標と関連科目

- 人間の身体と精神を理解し、全人的視点をもつ医療人を育成する。
【関連科目】人体形態学、人体機能学、人体病理学、運動学、内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学、保健学概論、保健医療福祉倫理学、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント等
- 実践的な問題解決能力と治療技術を身につける。
【関連科目】リハビリテーション医学、救急・蘇生医学、作業療法概論、基礎作業学、身体障害作業療法評価学、身体障害作業療法治療学、精神障害作業療法評価学、精神障害作業療法治療学、発達障害作業療法評価学、発達障害作業療法治療学、臨床実習等
- 地域性や社会的ニーズにおける医療福祉サービスを理解する。
【関連科目】地域リハビリテーション概論、地域作業療法学、地域作業療法学実習、臨床実習等
- 問題意識を持ち、自己研鑽に努める。
【関連科目】基礎ゼミナール、研究方法論、卒業研究等



基礎作業学の実習風景(籐細工)

【卒業後の進路】

- 国公立病院
- 老人施設(介護老人保健施設・介護老人福祉施設)
- リハビリテーションセンター
- 小児療育施設
- 居宅介護支援事業所
- 訪問看護ステーション
- 教育・研究施設
- 大学院進学

身体障害作業療法治療学の授業風景～更衣動作の分析～



教育課程

看護学専攻

学 年	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■							
専門共通	■				■			
専門基礎	■							
専門科目	■							
臨地実習			■					
卒業研究					■			
保健師*	■							
助産師*			■					
高校教諭(看護)*	■							

*選択

放射線技術科学専攻

学 年	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■							
専門共通	■				■			
専門基礎	■							
専門科目			■					
臨床実習	■				■			
卒業研究					■			

検査技術科学専攻

学 年	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■							
専門共通	■				■			
専門基礎	■							
専門科目	■							
臨地実習					■		■	
卒業研究					■			
細胞検査士*			■					
食品衛生管理者*			■					

*選択

(教育課程は、2022年4月から新カリキュラムとなりました。)

理学療法学専攻

学 年 前後期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■							
専門共通	■				■			■
専門基礎	■					■		
専門科目	■						■	
臨床実習					■		■	
卒業研究						■		■

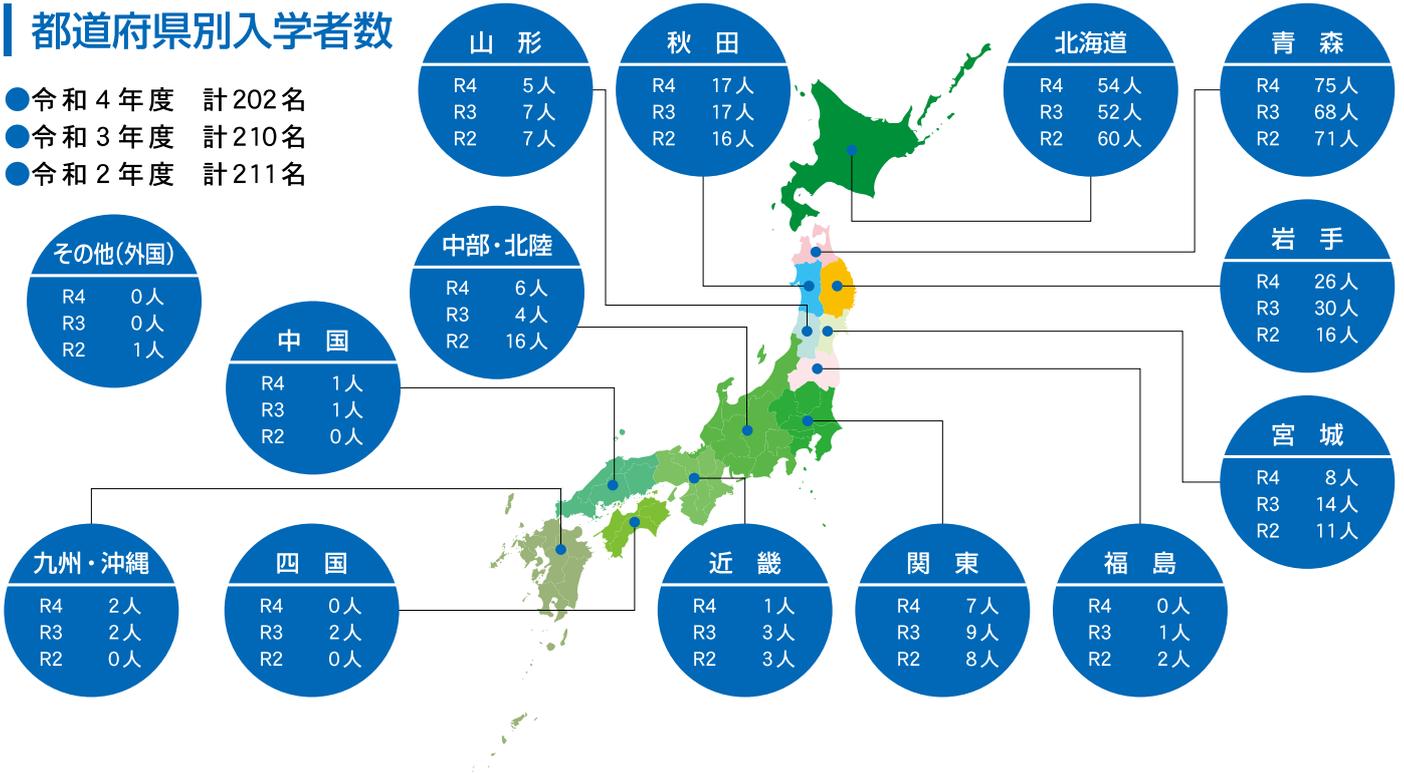
作業療法学専攻

学 年 前後期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■							
専門共通	■				■			■
専門基礎	■							
専門科目	■							
臨地実習					■			
卒業研究						■		■



都道府県別入学者数

- 令和4年度 計202名
- 令和3年度 計210名
- 令和2年度 計211名



卒業後の進路

看護学専攻：N 放射線技術科学専攻：R 検査技術科学専攻：T 理学療法学専攻：P 作業療法学専攻：O

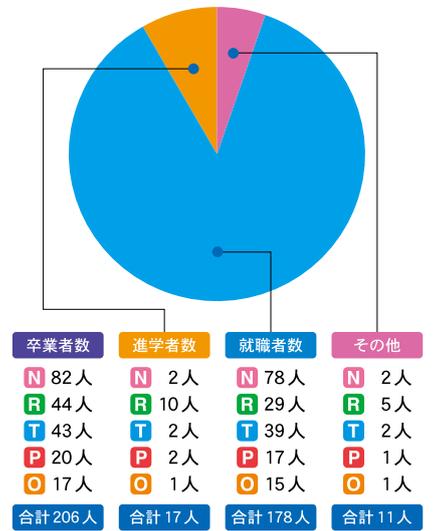
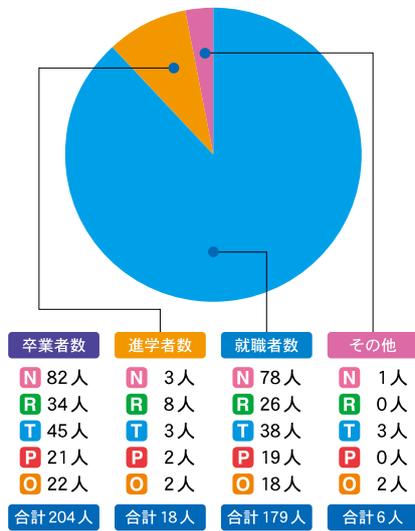
令和元年度



令和2年度



令和3年度



1年間の行事

4 April

- 入学式
- 学年始め
- 前期授業開始

5 May

- 弘前大学 開学記念日

6 June

7 July

8 August

- オープンキャンパス
- 夏季休業

9 September

地域別就職先

看護学専攻: **N** 放射線技術科学専攻: **R** 検査技術科学専攻: **T** 理学療法専攻: **P** 作業療法専攻: **O**

秋田

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 2人	N 1人	N 4人
R 1人	R 1人	R 2人
T 4人	T 2人	T 2人
P 1人	P 0人	P 0人
O 0人	O 1人	O 2人
合計8人	合計5人	合計10人

青森

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 21人	N 24人	N 22人
R 9人	R 6人	R 6人
T 8人	T 11人	T 13人
P 6人	P 4人	P 5人
O 2人	O 8人	O 3人
合計46人	合計53人	合計49人

中部・北陸

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 1人	N 3人	N 2人
R 1人	R 0人	R 1人
T 1人	T 1人	T 0人
P 0人	P 0人	P 2人
O 0人	O 0人	O 1人
合計3人	合計4人	合計6人

山形

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 0人	N 1人	N 0人
R 1人	R 1人	R 1人
T 1人	T 1人	T 2人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計2人	合計3人	合計3人

北海道

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 9人	N 17人	N 14人
R 10人	R 3人	R 5人
T 8人	T 5人	T 7人
P 4人	P 6人	P 6人
O 6人	O 0人	O 3人
合計37人	合計31人	合計35人

九州・沖縄

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 0人	N 1人	N 0人
R 1人	R 0人	R 0人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計1人	合計1人	合計0人

近畿

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 1人	N 0人	N 2人
R 0人	R 0人	R 0人
T 1人	T 1人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計2人	合計1人	合計2人

岩手

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 6人	N 1人	N 2人
R 1人	R 4人	R 4人
T 6人	T 3人	T 4人
P 0人	P 2人	P 0人
O 2人	O 3人	O 2人
合計15人	合計13人	合計12人

福島

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 1人	T 0人	T 1人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計1人	合計0人	合計1人

中国

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 1人	N 1人	N 2人
R 0人	R 0人	R 1人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 1人	O 0人	O 0人
合計2人	合計1人	合計3人

四国

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 0人	T 0人	T 1人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計0人	合計0人	合計1人

関東

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 26人	N 20人	N 23人
R 5人	R 9人	R 7人
T 5人	T 5人	T 2人
P 5人	P 6人	P 2人
O 5人	O 6人	O 2人
合計46人	合計46人	合計36人

宮城

令和元年度	令和2年度	令和3年度
N 6人	N 9人	N 7人
R 2人	R 2人	R 2人
T 6人	T 9人	T 7人
P 0人	P 1人	P 2人
O 0人	O 0人	O 2人
合計14人	合計21人	合計20人

10
October

11
November

12
December

1
January

2
February

3
March

- 弘前大学総合文化祭
- 後期授業開始

- 卒業研究発表会
- 冬季休業

- 国家試験
- 学年末休業

- 卒業式
- 学年末



大学院保健学研究科



看護学の専門知識と倫理性を深め、教育や臨床などの場において、指導的役割を担う人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

看護学領域

教員	主研究テーマ
教授 樋口 毅	●妊娠・分娩・授乳が骨密度・骨代謝に及ぼす影響
教授 中村 典雄	●脂肪酸代謝の腎臓病に及ぼす影響に関する研究
教授 野戸 結花 <small>(放射線看護高度看護実践コース教育担当教員)</small>	●がんの症状緩和ケアに関する研究 ●看護における放射線防護に関する研究
教授 藤田 あけみ	●がん患者と家族のQOLに関する研究 ●患者教育に関する研究 ●健康障害のある人の日常生活の向上に関する研究
教授 小倉 能理子	●看護師のキャリア形成、継続教育に関する研究 ●看護師の職務満足、職場環境に関する研究 ●患者教育に関する研究
教授 北宮 千秋	●健康の保持、増進へ向けた保健活動に関する研究 ●原子力災害における住民支援に関する研究
教授 大津 美香	●身体疾患を合併した認知症高齢者の看護に関する研究 ●慢性疾患重症化予防、高齢者の包括的疾患管理に関する研究 ●介護予防に関する研究
教授 富澤 登志子	●シミュレーション教育 ●クリティカルシンキングと看護診断 ●糖尿病および生活習慣病の療養支援 ●ICT・VRを用いた教育および教材開発
准教授 佐藤 真由美	●新卒看護師の社会化に関する研究 ●看護師の継続教育に関する研究 ●訪問看護における看護技術に関する研究
准教授 漆坂 真弓 <small>(放射線看護高度看護実践コース教育担当教員)</small>	●慢性疾患患者の看護に関する研究 ●被ばく医療、放射線看護に関する研究
准教授 扇野 綾子	●小児期発症慢性疾患患者の日常生活に関する研究 ●ストレス・コーピングに関する研究 ●検査や治療を受ける子どもと家族への看護に関する研究
准教授 北島 麻衣子 <small>(放射線看護高度看護実践コース教育担当教員)</small>	●放射線診療を受ける患者の看護に関する研究 ●症状緩和効果に関する研究

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

求められる必要な知識と技術習得保健医療分野において、
リーダーの役割を担う人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

放射線技術科学領域

教員	主研究テーマ
教授 床次 真司	<ul style="list-style-type: none"> ●放射線計測技術・線量評価手法の高度化・標準化に関する研究 ●環境中の放射性物質・放射線の測定に係る評価並びに動態に関する研究 ●放射線防護体系構築のためのリスク解析研究(リスクコミュニケーション、疫学調査など)
教授 敦賀 英知	<ul style="list-style-type: none"> ●肺胞弾性線維の放射線照射による影響評価に関する研究 ●皮膚真皮の弾性系線維の形成機構に関する研究 ●眼球毛様体小帯の改造機構に関する研究 ●放射線治療の有効性向上に関する生物学的基礎研究 ●放射線細胞応答における細胞小器官の役割に関する研究
教授 高橋 康幸	<ul style="list-style-type: none"> ●トレーサ情報解析に関する研究 ●SPECTおよびPET画像の画質改善に関する研究 ●診療放射線技師に係る法規に関する研究 ●医療被ばく線量の低減に関する研究 ●放射線緊急事態時の規制、安全管理等被ばく医療に関する研究
教授 工藤 幸清	<ul style="list-style-type: none"> ●X線診断機器の画質・性能評価および撮影線量の最適化に関する研究 ●医療従事者の水晶体被ばく線量推定に関する研究 ●地域保健医療に寄与するX線画像転送に関する研究
教授 赤田 尚史	<ul style="list-style-type: none"> ●生体試料中の放射性核種の迅速・簡易分析法の開発(バイオアッセイ)と内部被ばく線量評価に関する研究 ●環境・生体試料中トリチウム計測に関する研究 ●宇宙線生成核種を用いた地球表層における物質循環研究
教授 細田 正洋	<ul style="list-style-type: none"> ●環境中の放射線および放射性核種の計測・動態評価・線量評価に関する研究 ●原子力災害時における放射線計測手法の高度化および線量評価に関する研究
准教授 門前 暁	<ul style="list-style-type: none"> ●がん核医学療法における重要臓器を防護するための治療技術最適化に関する研究 ●がん放射線療法における骨髄抑制の発症抑制に関する臨床研究 ●新たな生物学的放射線被ばく線量定量法(バイオドシメトリ)の技術開発 ●非密封放射性同位元素を利用する汚染管理区域の管理業務最適化に関する研究
准教授 大森 康孝	<ul style="list-style-type: none"> ●自然放射線による内部および外部被ばくに関する研究 ●原子力災害に起因する放射性物質の環境動態及び被ばく線量評価に関する研究 ●ラドンおよびトロンの環境中の動態に関する研究
講師 對馬 恵	<ul style="list-style-type: none"> ●超音波検査による動脈硬化診断の臨床的研究 ●放射線教育の実践

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

病態因子・機序の解析、診断・治療等への開発、教育・研究生体機能・病態の解析のできる人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

生体検査科学領域

教員	主研究テーマ
教授 丹藤 雄介	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養関連バイオマーカー、栄養アセスメントに関する研究 ● 糖尿病療養デバイスの開発と病態解析
教授 山形 和史	<ul style="list-style-type: none"> ● 造血管腫瘍における形態的特徴と予後の検討 ● 血液疾患診断のためのAI解析技術の検討 ● 造血管腫瘍と二次発がん発症における疫学的研究
教授 松宮 朋穂	<ul style="list-style-type: none"> ● サイトカインストーム発症メカニズムの解明 ● SARS-CoV-2の自然免疫応答への影響 ● 臓器特異的な新規画像検出プローブの開発 ● 抗ウイルスストレス顆粒の研究
教授 宮崎 航	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達・発育における環境因子(環境化学物質)の影響に関する研究 ● 環境因子によるエピゲノム変化とその発現メカニズムの解明 ● リキッドバイオプシーによる臓器障害予測システムの開発
教授 三浦 富智	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規細胞遺伝学的被ばく線量評価法の開発 ● 染色体異常に及ぼす背景因子の解析 ● 医療被ばくおよび職業被ばくにおける染色体異常の解析 ● 放射線被ばくの生物影響研究 ● プロシアンジン類の腸管ホメオダイナミクスによる生活習慣病予防作用の解明
准教授 吉岡 治彦	<ul style="list-style-type: none"> ● 紫外・可視顕微分光法を用いたがん細胞の病理組織細胞学的解析 ● がん早期発見のための形態学的解析 ● 病理画像解析によるがん細胞の特徴抽出 ● 病理組織細胞検査の精度管理と検査技術法の確立
准教授 堀江 香代	<ul style="list-style-type: none"> ● 卵巣癌におけるエクソソーム内在因子に関する研究 ● フィトケミカルによる生活習慣病の予防
准教授 田副 博文	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射性核種及び重金属元素の生体内挙動および生物影響評価に関する研究 ● 固相抽出法および自動化技術による放射性核種分析技術の高度化に関する研究 ● 微量化学物質および同位体をトレーサーとする物質循環研究
准教授 葛西 宏介	<ul style="list-style-type: none"> ● L-アミノ酸オキシダーゼの抗菌活性調節に関する研究 ● ヒアルロン酸合成に関わる酵素活性調節に関する研究 ● 放射線生物影響評価(復興支援)
准教授 千葉 満	<ul style="list-style-type: none"> ● 細胞外小胞エクソソームの機能に関する研究 ● 癌と機能性RNAに関する研究 ● 癌浸潤・転移に関する研究 ● 疾患の早期発見バイオマーカーに関する研究
講師 藤岡 美幸	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品媒介感染症起因菌における感染経路の科学的解明に関する研究 ● 各種病原細菌における簡易検査法の開発に関する研究 ● 細菌及び原虫類に起因する疾患の検査・治療研究

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。



海外における環境中病原体調査の様子



この細胞を見つけることによって、子宮頸がんは早期に予防できるのです…。はい、先生。

実践の場でリーダーシップを発揮できる能力を養い、
評価・治療の実証・開発ができる人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

総合リハビリテーション科学領域

教員	主研究テーマ
教授 山田 順子	<ul style="list-style-type: none"> ●脳の性差とところの性差に関する神経生理学的解析 ●モデル動物を用いたリハビリテーションと脳の可塑性の研究 ●中枢神経系のGABA抑制機構を中心とした神経回路機能の研究 ●放射線照射による脳機能への影響に関する研究
教授 尾田 敦	<ul style="list-style-type: none"> ●足部機能と身体運動能力の関連性に関する研究 ●足部および下肢障害に対する足底挿板療法についての実践的研究 ●スポーツ障害の予防に関する研究 ●運動連鎖に伴う姿勢変化に関する研究 ●人間の姿勢と動作の三次元的解析について ●理学療法評価・治療に関する研究
教授 和田 一丸	<ul style="list-style-type: none"> ●精神障害者のQOL向上のための研究 ●精神障害者の社会参加促進のための研究 ●統合失調症患者の認知機能に関する研究 ●てんかんをもつ人の治療経過と予後に関する研究
教授 高見 彰淑	<ul style="list-style-type: none"> ●脳卒中患者の歩行機能評価、治療に関する研究 ●脳卒中患者の評価指標に関連する研究 ●認知機能に関する研究 ●がん、循環器疾患、小児疾患、呼吸器疾患など臨床上の評価指標全般に関する研究
教授 對馬 栄輝	<ul style="list-style-type: none"> ●筋骨格系障害に対する運動学的な姿勢・動作の分析 ●筋電計を用いた筋機能評価と姿勢・運動分析への応用 ●健康・疾病・障害に対する疫学研究と統計的解析の活用 ●理学療法評価と治療に関する研究
准教授 加藤 拓彦	<ul style="list-style-type: none"> ●精神障がい者への社会生活支援に関する研究 ●精神障がい者の作業能力に関する研究
准教授 吉田 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ●物理療法の効果検証・新たな介入法の開発に関する研究 ●運動療法と物理療法の協働(併用・同時施行)の有効性に関する研究 ●物理療法を用いたヘルスプロモーション(精神・身体リラクゼーション、ストレスマネジメント、障害予防など)に関する研究 ●理学療法を基盤としたペインリハビリテーションに関する研究 ●理学療法の評価・治療全般に関する研究
講師 平川 裕一	<ul style="list-style-type: none"> ●生活行為における身体運動・動作の解析とその治療への応用に関する研究 ●福祉用具の開発に関する研究 ●地域住民の健康増進・介護予防に関する研究
講師 上谷 英史	<ul style="list-style-type: none"> ●身体障害者に対する日常生活活動の評価および治療に関する研究 ●福祉用具の開発に関する研究 ●地域住民の介護予防に関する研究
講師 藤田 俊文	<ul style="list-style-type: none"> ●脳血管疾患や高齢者の介護予防、認知症予防に関する研究 ●全身振動刺激の有効性に関する研究 ●機能的食品素材と運動に関する研究 ●各種疾患の動作解析に関する研究 ●臨床上的評価指標全般に関する研究
講師 小枝 周平	<ul style="list-style-type: none"> ●発達障害を有する子どもの運動に関する研究 ●発達障害を有する子どもの栄養に関する疫学的研究 ●高齢者の精神医学的側面に関する研究 ●整形外科疾患の作業療法治療に関する研究

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

看護学の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性を深め、
教育・研究者として実践できる人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

看護学領域

教員	主研究テーマ
教授 中村 典雄	●糖尿病性腎臓病の進展に及ぼす因子についての研究
教授 野戸 結花	●看護における放射線防護に関する研究 ●リンパ浮腫に対する複合的療法の有効性、セルフケア支援、発症予防に関する研究
教授 藤田 あけみ	●がん患者と家族のQOLに関する研究 ●患者教育に関する研究
教授 小倉 能理子	●看護師のキャリア形成、継続教育に関する研究 ●看護師の職務満足、職場環境に関する研究 ●患者教育に関する研究
教授 北宮 千秋	●健康の保持、増進へ向けた保健活動に関する研究
教授 大津 美香	●認知症高齢者の看護に関する研究 ●外来・在宅療養における疾病管理に関する研究
教授 富澤 登志子	●シミュレーション教育とアクティブラーニング ●クリティカルシンキングと看護診断 ●糖尿病および生活習慣病の療養支援 ●ICT・VRなどを活用した教育及び教材作成

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。



皮膚温、血流量などを測定できる装置を用いた実験場面



指導教員と文献検討を行う場面



学位審査会の場面

保健医療の課題に対して、
新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

放射線技術科学領域

教員	主研究テーマ
教授 床次 眞司	<ul style="list-style-type: none"> ●放射線計測技術・線量評価手法の高度化・標準化に関する研究 ●環境中の放射性物質・放射線の測定に係る評価並びに動態に関する研究 ●放射線防護体系構築のためのリスク解析研究(リスクコミュニケーション、疫学調査など)
教授 敦賀 英知	<ul style="list-style-type: none"> ●肺泡弾性線維の放射線照射による影響評価に関する研究 ●皮膚真皮の弾性系線維の形成機構に関する研究 ●眼球毛様体小帯の改造機構に関する研究 ●放射線治療の有効性向上に関する生物学的基礎研究 ●放射線細胞応答における細胞小器官の役割に関する研究
教授 高橋 康幸	<ul style="list-style-type: none"> ●トレーサ情報解析に関する研究 ●SPECTおよびPET画像の画質改善に関する研究 ●診療放射線技師に係る法規に関する研究 ●医療被ばく線量の低減に関する研究 ●放射線緊急事態時の規制、安全管理等被ばく医療に関する研究
教授 赤田 尚史	<ul style="list-style-type: none"> ●生体試料中の放射性核種の迅速・簡易分析法の開発(バイオアッセイ)と内部被ばく線量評価に関する研究 ●環境・生体試料中トリチウム計測に関する研究 ●宇宙線生成核種を用いた地球表層における物質循環研究
教授 工藤 幸清	<ul style="list-style-type: none"> ●X線診断機器の画質・性能評価および撮影線量の最適化に関する研究 ●医療従事者の水晶体被ばく線量推定に関する研究 ●地域保健医療に寄与するX線画像転送に関する研究
教授 細田 正洋	<ul style="list-style-type: none"> ●環境中の放射線および放射性核種の計測・動態評価・線量評価に関する研究 ●原子力災害時における放射線計測手法の高度化および線量評価に関する研究
准教授 門前 暁	<ul style="list-style-type: none"> ●がん核医学療法における重要臓器を防護するための治療技術最適化に関する研究 ●がん放射線療法における骨髄抑制の発症抑制に関する臨床研究 ●新たな生物学的放射線被ばく線量定量法(バイオドシメトリ)の技術開発 ●非密封放射性同位元素を利用する汚染管理区域の管理業務最適化に関する研究
准教授 大森 康孝	<ul style="list-style-type: none"> ●自然放射線による内部および外部被ばくに関する研究 ●原子力災害に起因する放射性物質の環境動態及び被ばく線量評価に関する研究 ●ラドンおよびトロン環境中の動態に関する研究

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。



培養細胞に非電離放射線を照射している様子



核医学検査の定量評価のためのファントム実験



IVR装置使用時の散乱線測定実験

生体機能及び病因・病態解析に係る教育・研究を行い、
多様な問題を解決するための独創性と実行力を兼ね備えた人材を育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

生体検査科学領域

教員	主研究テーマ
教授 丹藤 雄介	<ul style="list-style-type: none"> ●疾患と栄養素代謝の変化 ●膵外分泌・消化吸収機能の研究 ●膵線維化、炎症における細胞内情報伝達システムの解析
教授 山形 和史	<ul style="list-style-type: none"> ●造血管腫瘍における形態的特徴と予後の検討 ●血液疾患診断のためのAI解析技術の検討 ●造血管腫瘍と二次発がん発症における疫学的研究
教授 松宮 朋穂	<ul style="list-style-type: none"> ●サイトカインストーム発症メカニズムの解明 ●SARS-CoV-2の自然免疫応答への影響 ●臓器特異的な新規画像検出マーカーの開発 ●抗ウイルスストレス顆粒の研究
教授 宮崎 航	<ul style="list-style-type: none"> ●発達・発育における環境因子(環境化学物質)の影響に関する研究 ●環境因子によるエピゲノム変化とその発現メカニズムの解明 ●リキッドバイオプシーによる臓器障害予測システムの開発
教授 三浦 富智	<ul style="list-style-type: none"> ●新規細胞遺伝学的被ばく線量評価法の開発 ●染色体異常に及ぼす背景因子の解析 ●医療被ばくおよび職業被ばくにおける染色体異常の解析 ●放射線被ばくの生物影響研究 ●抗菌性タンパク質の活性調節機構に関する研究 ●ヒアルロン酸合成の調節に関する研究
准教授 吉岡 治彦	<ul style="list-style-type: none"> ●紫外・可視顕微分光法を用いたがん細胞の病理組織細胞学的解析 ●がん早期発見のための形態学的解析 ●病理画像解析によるがん細胞の特徴抽出 ●病理組織細胞検査の精度管理と検査技術法の確立
准教授 堀江 香代	<ul style="list-style-type: none"> ●フィトケミカルによる生活習慣病の予防 ●細胞外小胞(エクソソーム)による腫瘍マーカー及び、がんの予後・予知因子に関する研究
准教授 田副 博文	<ul style="list-style-type: none"> ●放射性核種及び重金属元素の生体内挙動および生物影響評価に関する研究 ●固相抽出法および自動化技術による放射性核種分析技術の高度化に関する研究 ●微量化学物質および同位体をトレーサーとする物質循環研究
准教授 千葉 満	<ul style="list-style-type: none"> ●細胞外小胞エクソソームの機能に関する研究 ●癌と機能性RNAに関する研究 ●癌浸潤・転移に関する研究 ●疾患の早期発見バイオマーカーに関する研究
講師 藤岡 美幸	<ul style="list-style-type: none"> ●食品媒介感染症起因菌における感染経路の科学的解明に関する研究 ●各種病原細菌における簡易検査法の開発に関する研究

指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。



各種病原菌における科学的解明に関する研究



感染症起因菌の特殊培地を用いた性状解析



ディスカッション顕微鏡を用いたがん細胞の形態研究

理学療法学及び作業療法学の幅広い学識と高度な専門知識および、倫理性を深め“未解明のエビデンスの探究・蓄積”ができる人材の育成。

(主研究テーマは令和5年4月現在の情報)

総合リハビリテーション科学領域

教員	主研究テーマ
教授 尾田 敦	<ul style="list-style-type: none"> ● 足部機能と身体運動能力の関連性に関する研究 ● 足部および下肢障害に対する足底挿板療法についての実践的研究 ● スポーツ障害の予防に関する研究 ● 運動連鎖に伴う姿勢変化に関する研究 ● 人間の姿勢と動作の三次元的解析について ● 理学療法評価・治療に関する研究
教授 和田 一丸	<ul style="list-style-type: none"> ● 統合失調症者に対する精神科作業療法の有効性に関する研究 ● てんかんをもつ人の臨床経過と社会的予後に関する研究 ● 統合失調症患者の認知機能に関する研究
教授 高見 彰淑	<ul style="list-style-type: none"> ● 脳卒中患者の歩行機能評価、治療に関する研究 ● 高次脳機能障害に関する研究 ● 脳卒中患者の評価指標に関連する研究 ● 臨床上の評価指標全般に関する研究
教授 對馬 栄輝	<ul style="list-style-type: none"> ● 筋骨格系障害に対する運動学的な姿勢・動作の分析 ● 筋電計を用いた筋機能評価と姿勢・運動分析への応用 ● 健康・疾病・障害に対する疫学研究と統計的解析の活用 ● 理学療法評価と治療に関する研究
准教授 吉田 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理療法の効果検証・新たな介入法の開発に関する研究 ● 運動療法と物理療法の協働(併用・同時施行)の有効性に関する研究 ● 物理療法を用いたヘルスポモーション(精神・身体リラクゼーション、ストレスマネジメント、障害予防など)に関する研究 ● 理学療法を基盤としたペインリハビリテーションに関する研究 ● 理学療法の評価・治療全般に関する研究
講師 小枝 周平	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害を有する子どもの運動に関する研究 ● 発達障害を有する子どもの栄養に関する研究 ● 高齢者の精神医学的側面に関する研究 ● 整形外科疾患の作業療法に関する研究

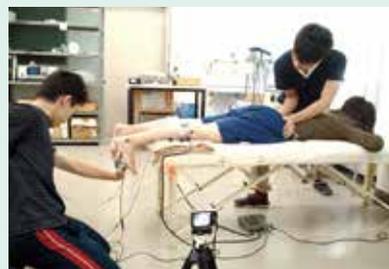
指導教員についての最新情報は、2024年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。



脳スライスパッチクランプ法を用いたシナプス解析



免疫染色による脳機能解析



ストレッチングに関する実験



三次元動作解析の実験



放射状迷路によるマウスの記憶学習テスト



筋電図を用いたスクワット動作の大腿筋活動の計測

被ばく医療コース

博士前期課程及び博士後期課程において、被ばく医療コースの選択が可能です。人材育成の目的、到達目標は以下のとおりです。

なお、被ばく医療コースを修了した者には、博士前期課程においては「被ばく医療認定士」、博士後期課程においては本研究科博士前期課程被ばく医療コースを修了済みの者に限り、「被ばく医療指導士」の称号が付与されます。

また、被ばく医療コースには、定員や人数制限等の定めはありません。ただし、被ばく医療コースの修士論文、博士論文のテーマは、放射線に関連したものとなります。

博士前期課程被ばく医療コース

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として、緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成する。

【目的】

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として、緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成する。

【到達目標】

- ①緊急被ばく医療に関する専門的知識・技術を習得する。
- ②緊急被ばく医療分野において求められるリーダーシップ能力を習得する。
- ③緊急被ばく医療に関する教育・研究的能力を習得する。

博士後期課程被ばく医療コース

【目的】

放射線にかかわる緊急被ばく医療における高度な教育者および研究者を養成し、本分野の学問の発展に貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

- ①緊急被ばく医療に関する高度な専門的知識と技術を習得する。
- ②緊急被ばく医療分野において求められる研究手法を習得し、これを展開できる。



X線照射による放射線線量を測定する演習



高密度の金属を用いた放射線の遮へいを学習する演習

放射線看護高度看護実践コース

博士前期課程に、放射線看護高度看護実践コースを設置しています。教育目的・教育目標は以下のとおりです。なお、本コースを修了した者には、「放射線看護高度実践看護師」の称号が付与されます。また、本コースは日本看護系大学協議会から放射線看護専攻教育課程(専門看護師教育課程)の認定を受けています。

【教育目的】

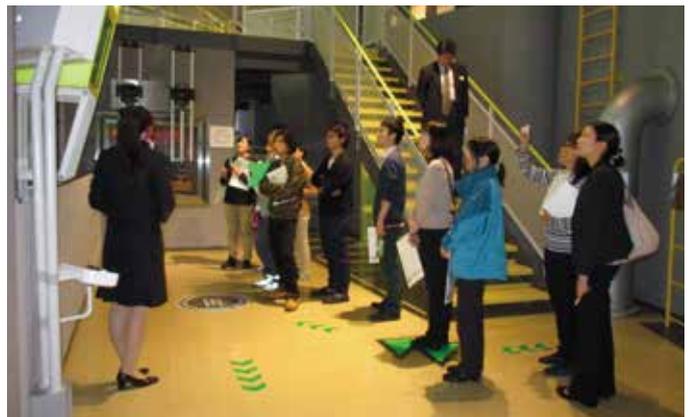
本コースは、放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を基盤とし、施設や地域における個人や集団の放射線被ばく防護対策に従事すると共に、放射線被ばくに関連した複雑な健康問題を持つ個人、家族および集団に対して高度看護実践を行うことのできる人材の育成を目指す。

【教育目標】

- ①放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を活用し、顕在あるいは潜在した放射線の人体影響を有する対象への高度看護実践を行うことができる。
- ②放射線被ばくを最小限にするための的確な臨床判断と管理を行うことができる。
- ③個人や集団が放射線に関する正しい知識を有し、自らの健康を守るための判断と行動ができるように教育・啓発活動及び相談活動ができる。
- ④看護職者に対して、放射線看護に必要な知識及び技術に関する教育・相談活動ができる。
- ⑤放射線看護に必要な教育・医療システムの調整を行うことができる。
- ⑥放射線看護に関する倫理的課題に対しいかなる確かな判断を行い、解決に向けて支援を行うことができる。
- ⑦放射線看護に関する専門的知識や技術の向上に資する看護研究を行うことができる。



除染処置の様子



原子力発電PR施設見学の様子

特定プロジェクト教育研究センター

保健学研究科の特徴ある教育、研究及び社会貢献を展開するため、下記の「特定プロジェクト教育研究センター」を設置し、積極的な活動を展開しています。

生体応答科学研究センター

生体応答科学研究センターは、弘前大学保健学研究科の放射線生命科学分野、生体機能科学分野および病態解析科学分野の有志をメンバーの中心に、平成20年(2008年)に開設されました。本センターの目的は、メンバーの横断的な連携により、領域の垣根を超えた研究の推進・向上を図ることを主眼とし、その上で地域貢献や教育の活性化に向けた研究成果を広く世界に向けて発信することにあります。その後、新設された被ばく医療総合研究所、看護学領域と総合リハビリテーション科学領域の教員も加わり、より領域横断的研究が強化され、ストックホルム大学、韓国原子力医科学院などの研究者も加え、国際共同研究環境も広く行われています。一方、青森県内で年1回の市民講演会を行い、青森県民の保健科学的知識の啓蒙に努めるとともに、保健学研究科内でセミナーを開催し、センター員の研究の共同化、多様化を推進しています。これら活動の上で、多くの研究業績を生み出し、研究活動を支える研究費の獲得を共同で進め、次代の弘前大学の研究活動を担う若手研究者を育成しています。

特定プロジェクト教育研究センターの活動内容についての最新情報は、弘前大学医学部保健学科・大学院保健学研究科ホームページによりご確認ください。



学校支援

生活支援制度(学部・大学院)

●入学料・授業料減免制度

【学部】 本学は「高等教育の修学支援新制度」の対象校に指定されているため「高等教育の修学支援新制度」の支援対象となった方は、支援区分に応じて入学料・授業料が減免されます。

【大学院】 入学料・授業料の減免・徴収猶予制度があります。(条件有)

●日本学生支援機構奨学金制度

学業・人物ともに優秀であって、経済的に修学が困難と認められた学生への奨学金の制度があります。

●その他の支援制度

経済的理由により修学が困難な学生に対し、各種民間団体・地方公共団体等が行う奨学金制度のほか、弘前大学独自の支援制度があります。

研究支援制度(大学院)

各種研究費等支援事業があります。

※詳細は弘前大学ホームページをご確認ください。



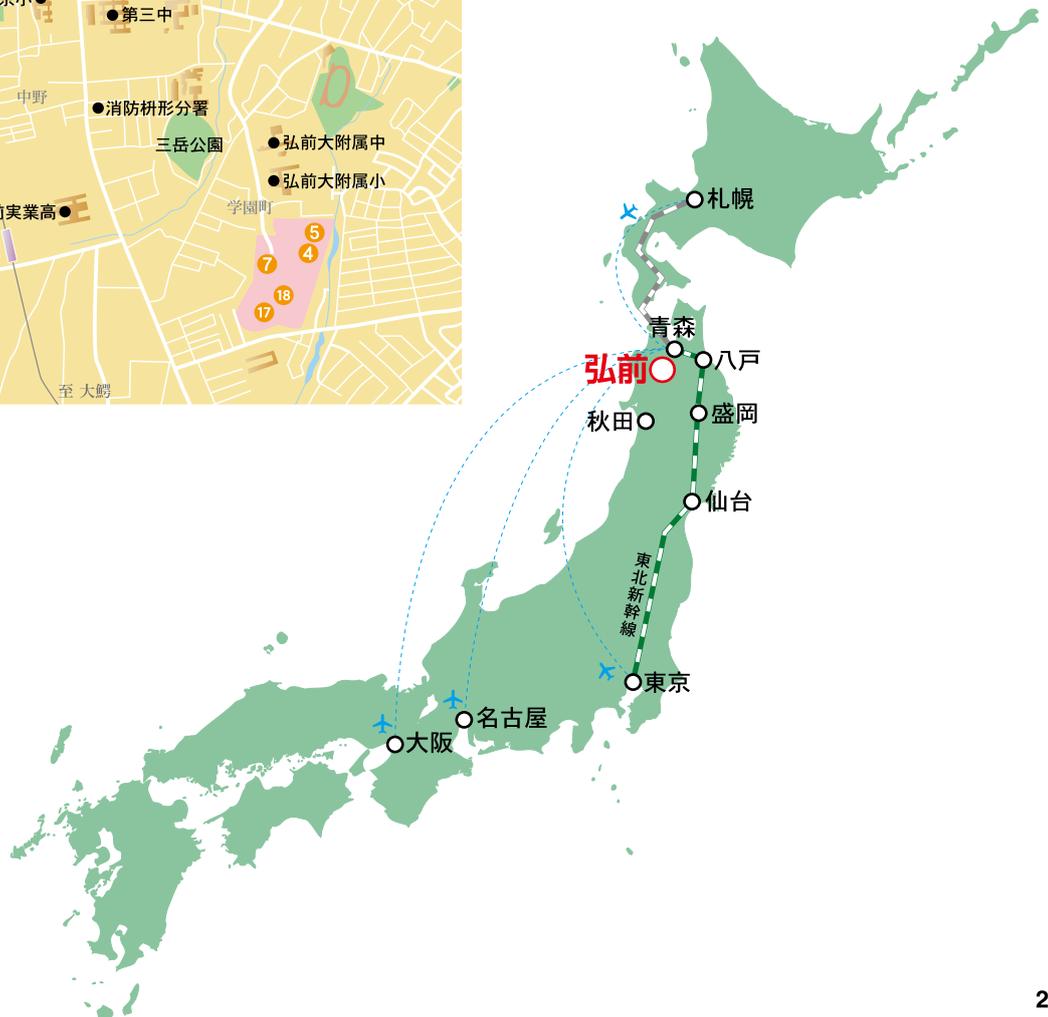


弘前大学所在機関所在略図(弘前市)

- ①事務局 ②人文社会科学部 ③教育学部
- ④附属小学校 ⑤附属中学校 ⑥附属特別支援学校
- ⑦附属幼稚園 ⑧理工学部 ⑨医学部医学科
- ⑩附属病院
- ⑪医学部保健学科／大学院保健学研究科
- ⑫医学部心理支援科学科
- ⑬農学生命科学部 ⑭総合教育棟 ⑮附属図書館
- ⑯保健管理センター ⑰北鷹寮(男子)
- ⑱朋寮(女子) ⑲北溟寮(男子)

本学までの案内

1. JR奥羽本線弘前駅下車
 - (1) 駅前中央口からバス
 - 桔梗野又は金属団地經由桜ヶ丘団地行き
本町バス停下車……………徒歩2分
 - 駒越經由藤代行き
 - 茂森新町行き
 - 四中校行き
大学病院前バス停下車……………徒歩1分
 - (2) 駅前からタクシー……………約10分
2. 弘南鉄道中央弘前駅下車……………徒歩7分



1) 医学部保健学科が求める学生像

医学部保健学科では、保健医療の高度な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と問題解決能力を備え、創造性、独創性と国際的視野を有し、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・保健医療専門職となるための学修に必要な基礎的学力
- ・将来、他の医療職者と協調しながら保健医療活動を実践するための行動力
- ・向上心と研究心を基に、保健医療の実践者として社会に貢献する強い意欲、また、医学部保健学科の各専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【看護学専攻】

- ・人間や生命、健康に関心を持ち、看護専門職者として知的・人格的に成長しようとする意欲のある人
- ・人間の尊厳を重んじ、人や社会、文化の多様性を認め、人と良好な関係を築くことができる人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師専門職となるための学修に必要な学力を有し、特に理系の科目をしっかりと履修した人
- ・チーム医療の一員として積極的にコミュニケーションを図り、他の医療技術者と互いに協力し合い、より良い医療を提供するための行動力のある人
- ・医療を安全に行う能力を有し、生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】

- ・医療従事者としての自覚とチーム医療遂行のための協調性を持ち、鋭い観察力と洞察力ならびに応用力を備えて保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- ・自然科学、保健医療、臨床検査に強い関心を持ち、検査職をとおして人々の健康維持・増進に積極的に取り組む意欲のある人

【理学療法学専攻】

- ・他者と適切な関係を築きながら、さまざまな人々と協働して、障害者等が抱える問題の解決に取り組む行動力を有する人
- ・理学療法士として向上心・研究心を持って保健医療に取り組み、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという強い意欲のある人

【作業療法学専攻】

- ・作業療法の対象者の個別の価値観や生活を尊重し、対象者の希望に沿った作業活動を考えつつ実践するための行動力のある人
- ・チーム医療の一員として、他職種を尊重しながら、作業療法を積極的に実行する意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・医療従事者は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。
- ・チーム医療の一員として医療に関わることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- ・探究心や探求心などにに基づき、さまざまなことに関わる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学選抜の基本方針

医学部保健学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により次のとおり入学者を選考します。

(1) 一般選抜(前期)

高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するとともに、医療従事者としての資質・能力・適性・意欲・関心等を評価するという観点から、共通テスト、個別学力検査、小論文(該当する専攻のみ)等により総合評価して選抜します。

(2) 総合型選抜Ⅱ

本学科のカリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための基礎的学力、資質・能力・適性・意欲・関心等を評価するという観点から、共通テスト、小論文、個人面接等により総合評価して選抜します。

(3) 編入学入試(第3年次)

専門教育についての学習に強い意欲と行動力を評価するという観点から、「学力」については、学力検査と小論文、「意欲」、「行動力」については個人面接で評価し、総合評価して選抜します。

※入学選抜方法の内容と評価要素は、医学部保健学科ホームページでご確認ください。

医学部保健学科カリキュラム・ポリシー

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的としたカリキュラムを提供するという観点から、教育課程の編成・実施方針をつぎのように定めます。

【看護学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- ・幅広い教養【教養教育:社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育:英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育:グローバル科目】や地域状況【教養教育:ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育:スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- ・専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント、人体形態学、人体機能学、人体病理学など】
- ・専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。【母性看護学概論・演習実習、小児看護学概論・演習・実習、成人看護学概論・演習・実習、老年看護学概論・実習・演習、精神看護学概論・演習・実習、在宅看護学概論・演習・実習など】
- ・看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで、人間や社会の洞察を深化させ見通す力を養います。【人間発達論、疾病論、社会福祉学、看護学概論、看護技術学、看護過程論演習など】
- ・看護学の専門知識を活用し、社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種と連携・協働、調整能力を発揮し問題を解決していく力を培います。【看護学概論、基礎看護学実習など】
- ・看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身に付け、創造力と探求の習慣を確立し、生涯にわたって看護学を発展・向上させようとして学び続ける力を培います。【看護教育学概論、看護教育方法論、卒業研究など】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 年次配置に応じて講義、演習、実習を効果的に組み合わせた教育を行います。
- (3) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (4) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、実技試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【放射線技術科学専攻】

1.教育課程の編成・実施等

- 幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入・学部越境型地域志向科目群】
- 専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、【人体形態学、人体機能学、等】保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質の育成を目指します。【保健学概論等】
- 専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門基礎科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。【放射線物理学・演習、放射線計測学・演習・実験、等】
- 専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで、論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養います。【診療画像技術学Ⅰ・Ⅱ・演習、核医学検査学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、放射線治療機器工学・放射線治療技術学・演習Ⅰ・演習Ⅱ、等】
- 放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し、高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養います。【卒業研究等】
- 診療放射線技師として、日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び、探求する習慣を獲得します。【臨床実習Ⅰ・Ⅱ等】

2.教育・学習方法

- 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充します。

3.学習成果の評価

- 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【検査技術科学専攻】

1.教育課程の編成・実施等

- 幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】。
- 専門共通科目は、各専攻に共通して必要な科目であり、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【保健学概論、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント、人体形態学、人体機能学、人体病理学など】
- 専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。【医用情報機器工学、臨床生理学、臨床化学検査学、栄養・代謝学、分子生物検査学、尿検査学、病理組織細胞検査学、臨床免疫学、臨床血液学、臨床微生物検査学、内科学Ⅰ・Ⅱ、衛生学・公衆衛生学など】

- 臨床検査技師として必要な実践力を習得するとともに、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けます。【検査管理総論、臨床検査総合演習Ⅰ・Ⅱ、臨地実習など】
- チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付け、問題解決能力を高めます。【地域医療検査学、感染制御学など】
- 臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。【卒業研究など】

2.教育・学習方法

- 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- 臨床検査に関する専門知識と技術の系統的な教育を行う。学習は講義・演習・実習を段階的に実施することで知識・理解・実践力を高め、臨床検査技師として必要な見通す力と解決する力を身に付けさせます。
- 将来にわたって自ら臨床検査学分野の課題を見出し、その解決に向けた論理的思考力と実行力を養うため、日頃からプレゼンテーション、グループディスカッション、アクティブ・ラーニングを取り入れた学生主体の能動型授業を展開します。

3.学習成果の評価

- 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などから臨床検査に関する専門知識及び技術の修得達成度を客観的に評価する。その評価方法については、授業内容の詳細とともに到達目標と成績評価基準をシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【理学療法科学専攻】

1.教育課程の編成・実施等

- 幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】。
- 保健医療専門職に必要な人体に関する基礎知識と健康・保健の知識・考え方を身に付けるとともに、保健医療専門職それぞれの役割と協働・連携について理解し、個人や社会における諸問題や課題を多面的に見通す力を養います。【専門共通科目：人体形態学、人体機能学、人体病理学、保健学概論、医療リスクマネジメント】
- リハビリテーションと理学療法に関する専門的知識・技術と考え方を1年次から体系的に学修し、リハビリテーションの対象者が抱える諸問題や地域の課題を見きわめ、チーム医療の一員として解決していく力を養います。【専門基礎科目：運動学、理学療法概論、リハビリテーション医学】、【専門科目：理学療法評価学、臨床判断分析学、運動療法学、物理療法学、義肢装具学、筋骨格系障害・神経系障害・脳障害・内部系障害・小児・スポーツ障害理学療法学、地域理学療法学、理学療法管理学、臨床実習Ⅰ～Ⅴ等】
- 理学療法の学術的課題を計画的および論理的に探求・解決するための研究方法を身に付け、理学療法士として社会貢献を意識し、生涯にわたって自己の成長と保健医療分野の問題を探求・解決するために学び続ける力を養います。【専門科目：理学療法研究方法論・理学療法研究演習】、【卒業研究】

2.教育・学習方法

- 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- 理学療法に関する専門教育をとおして理学療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。

- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究をとおして、その課題の解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、実技試験、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【作業療法学専攻】

1. 教育課程の編成・実施等

- 幅広い教養【教養教育：社会・文化、自然・科学、人間・生命】と外国語の運用能力【教養教育：英語、多言語】を身に付け、保健医療分野の国際状況【教養教育：グローバル科目】や地域状況【教養教育：ローカル科目】を的確に見極める力を養います。
- 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。【教養教育：スタディスキル導入科目、学部越境型地域志向科目、キャリア教育】
- 保健医療専門職者として各専攻に共通して必要な基礎知識を修得させます。【専門共通科目：人体形態学、人体機能学等】
- チーム医療の一員である保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養います。【専門共通科目：保健学概論、医療リスクマネジメント等のコア科目】
- 養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な専門基礎科目及び専門科目は、1年次から専門科目を組み込んだ模様の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。
- チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献する基礎的な力を養います。【専門基礎科目：リハビリテーション医学、言語療法学等】
- 作業療法士に必要とされる実践力を涵養し、専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法の諸問題を的確に見極める能力を養います。【専門科目：作業療法評価学、作業治療学、臨床実習等】
- 作業療法士として、リハビリテーション医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を養います。【卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ】

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにCAP制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) 作業療法に関する専門教育をとおして作業療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行います。
- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究をとおして、その課題の解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けるため、学生が主体となる能動的な授業を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価します。
- (2) 演習、実習、臨床実習、卒業研究をとおして、課題解決に向けての主体性・自律性およびリハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を評価します。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

医学部保健学科では、前述の「カリキュラム・ポリシー」に基づいて編成された教育課程に沿って保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士(看護学)の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士(保健学)の学位を授与します。

具体的には、つぎの目標に達していることが学位取得の要件となります。

【看護学専攻】

- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- 修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- 医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- 看護専門職に必要な最新の専門知識及び人間や社会への洞察を深化させ見通す力を身に付けていること。
- 看護を取り巻く社会的ニーズの変化に柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種との連携・協働、調整及び問題を解決する実践力を身に付けていること。

【放射線技術科学専攻】

- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- 修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。
- 医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- 最新の専門知識と技術及び論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を身に付けていること。
- 放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用できる学術的問題解決能力を身に付けていること。

【検査技術科学専攻】

- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と臨床検査技師としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- 習得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力を身に付けていること。
- 医療専門職者として保健医療の正しい認識と社会貢献の意識、および生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- 最新の専門知識、判断力、実践力をもって臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身に付けていること。

【理学療法学専攻】

- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- 修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、他の専門職と協働・連携して個人や地域社会が直面している保健医療上の問題や課題を解決していく力を身に付けていること。
- 理学療法士として社会貢献を意識し、自己の成長と保健医療分野の発展のために生涯にわたって学び続ける力を身に付けていること。

【作業療法学専攻】

- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と保健医療専門職である作業療法士としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身に付けていること。
- 修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること。

- ・保健医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身に付けていること。
- ・最新の専門知識、実践力及び判断力、作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身に付けていること。
- ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる問題解決能力を身に付けていること。

大学院保健学研究科【博士前期課程】アドミッション・ポリシー

◎保健学専攻

1 概要

(1) 基本理念

保健学は、人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ、人々の健康について探究し、健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻(博士前期課程)では、この学際的な学問領域を進歩・発展させるとともに、保健学の領域における教育と研究を通して、その成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

(2) 教育目標

① 研究者としての能力開発

保健学に係わる学際的研究をエビデンスの探究という視点から専門の枠を超えて実践し、その結果を世界に向けて発信できる人材を育成します。

② 教育者の育成

大学及び大学院において教育指導に寄与でき、地域社会において科学的方法論に基づいた健康教育を実践できる人材を育成します。

③ 高度な専門知識・技術を身に付けた指導者の育成

高度な専門知識と技術を身に付け、チームの指導者として課題を選択・研究し、その解明に寄与できる人材を育成します。

④ 地域保健医療活動推進能力の育成

地域保健医療活動の場において指導的役割を果たす立場の者を教育・指導・支援できる人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・人々の健康を保持増進し、生活の質の向上に向けた独創的・学際的な研究を自立的に進められる学生
- ・高度な専門性、倫理性を身に付け、自らの専門性を深化・発展させることのできる学生
- ・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させる上で不可欠な、“エビデンスの探究・蓄積”ができる学生
- ・未解明の問題のエビデンスを探究するため、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開できる学生

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

- ・高度な専門知識と技術を基盤として理論やエビデンスを追求するための基礎的知識と方法論
- ・理論やエビデンスに対応した実践の展開や新しい技術を開発するための基礎的知識と方法論
- ・多専門職の連携によるチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できるための基礎的知識と方法論

4 入学者選抜方針

総合的学力及び研究に対する探求心、意欲等を評価するために、筆記試験(英語)及び口述試験の結果を総合して選抜します(提出書類は、口述試験の基礎資料として使用します)。

【看護学領域】

1 概要

看護学の幅広い学識と高度な専門知識と倫理性を深め、教育・研究者として独創的・学際的な研究を自立的に進め、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けて科学的根拠に基づき実践できる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・看護学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の保持増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
- ・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
- ・論理的思考力を基に、学際的な研究に自立的に取り組み、看護学の発展に寄与できる人

【放射線技術科学領域】

1 概要

人間の“生命活動”に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、サイエンスとしての放射線技術科学の更なる深化を図るとともに、今日的な保健医療の課題に対して、職種の枠を越えて相補的に連携・協働し、特定領域に縛られない新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・放射線技術科学に関わる教育・研究者を目指す人
- ・高度な専門知識と技能を持った臨床研究者を目指す人
- ・先端的な放射線技術科学の知識及び技術を学びたい人

【生体検査科学領域】

1 概要

分子、細胞レベルから個体に至る幅広い観点で生命現象を理解し、広範な生命科学領域における多様な問題を解決するための独創性と実行力を兼ね備えた人材を育成することを目的としています。このような人材育成を目的に、生命現象の分子レベルでの理解を基盤として、生体機能及び病因・病態解析に係る教育・研究を行います。

2 求める学生像

- ・生体検査科学に関連する教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
- ・保健・医療の現場において、高い倫理観と高度な専門知識を持った実行力のある人
- ・指導的・専門的立場から課題を見つけ、グローバルな観点から自立的な研究を行うことができる人

【総合リハビリテーション科学領域】

1 概要

理学療法学及び作業療法学を基盤としたリハビリテーション科学領域の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性をさらに深め、人々の健康の維持・増進、運動・精神障害の予防と軽減、生活の質(QOL)の向上を目的とした科学的根拠に基づくリハビリテーション(Evidenced Based Rehabilitation)を実践・発展させていく上で不可欠な、“未解明のエビデンスの探究・蓄積”ができる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の維持・増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
- ・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
- ・既存概念にとらわれない発想と論理的思考力を基に、学際的な研究に自立的に取り組み、保健学を発展させていける人

大学院保健学研究科【博士前期課程】カリキュラム・ポリシー

1. 教育課程の編成・実施

(1) 共通コア科目

共通コア科目は、医療チームの中で指導的役割を果たせるコア・メデイカルスタッフ養成のための共通した知識の修得及び具体的な修士論文作成に当たっての学際的研究手法の修得を目的としています。

(2) 専門科目

専門科目は、専門分野の基礎、専門知識の取得を目的とした各領域の特論と修士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属領域の基礎特論・演習・特別研究で構成しています。

【看護学領域】

1. 教育課程の概要

看護学領域は、看護学の教育・倫理・管理学の基本概念となる課題を取り上げるとともに、各ライフステージにおける健康の保持・増進及び在宅療養と看取りを見据えた生活支援のための授業科目を編成しています。

2. 教育・学習方法

- (1) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、学際的研究手法を習得させます。
- (2) 看護学の高度な専門知識の修得(特論)、修得した知識体系を省察し批判的に分析する応用力の修得(演習)、研究計画に従って実施し、探求し、新たな知見を論理的に論文化する能力の修得(特別研究)をとおして、能動的、段階的に学習させ、修士論文を執筆させます。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる成績評価基準に基づき客観的に評価します。
- (2) 科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【放射線技術科学領域】

1. 教育課程の概要

診断や治療は生体の器官、組織、細胞の各レベルから得られる情報を基に行われています。放射線技術科学領域では、生体からの情報を物理学的、化学的及び生物学的手法を駆使して評価解析し、診断や治療への応用発展を目標としています。その為に必要な知識と技術の修得と共に、保健医療分野のリーダーの役割を担う人材の育成を目指した授業科目を編成しています。

2. 教育・学習方法

- (1) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、学際的研究手法を習得させます。
- (2) 放射線技術科学の高度な専門知識の修得(特論)、修得した知識体系を省察し批判的に分析する応用能力の修得(演習)、研究計画に従って実施し、探求し、新たな知見を論理的に論文化する能力の修得(特別研究)をとおして、能動的、段階的に学習させ、修士論文を執筆させます。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる成績評価基準に基づき客観的に評価します。
- (2) 科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。
- (3) 研究遂行能力の評価は、修士論文審査会及び発表会等において、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を審査するとともに研究倫理の獲得力や修士論文の執筆能力等を合わせて総合的にを行います。

【生体検査科学領域】

1. 教育課程の概要

生体は細胞を最小基本単位とし、その集団としての組織、器官等により形成されていますが、病態因子・機序の解析は、生体レベルから細胞レベルまで遡行することで可能となり、その成果は診断・治療等への開発に繋がります。本領域では、この二方向性の教育・研究を主軸とし、生体検査科学領域の解析のできる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

2. 教育・学習方法

- (1) 生体検査科学の関連分野における基礎的素養の獲得のために主体的に学び続けることをとおして、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、学際的研究手法を習得させます。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、アクティブ・ラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせた能動的な授業を拡充し、修士論文に係る研究指導を行います。

3. 学習成果の評価

- (1) カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標と成績評価基準に則り、各科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点に基づき客観的に評価します。
- (2) 修士論文審査会等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を含め、研究遂行能力や研究倫理の獲得、さらには学位論文の執筆能力などを総合して修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを評価します。

【総合リハビリテーション科学領域】

1. 教育課程の概要

理学療法学及び作業療法学を基盤として、運動・精神障害の回復や生活活動の向上を目的とした評価・治療、生活環境要因が健康や障

害に及ぼす影響や住環境整備、などの研究を展開する。加えて、新しい医療技術や医療機器を開発でき、保健医療に貢献できる高度な専門技術を有し、実践の場でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

2. 教育・学習方法

- (1) 共通コア科目と専門領域の選択科目を1年次に配置するとともに、リハビリテーション科学特論・演習・特別研究を1年次から系統的に配置し、夜間開講と遠隔授業を導入しながら修了までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2) リハビリテーション科学特論・演習をとおして、主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、学際的研究手法を習得させます。
- (3) リハビリテーション科学特別研究における修士論文執筆をとおして、自ら課題を見出し、その解決に向けて多面的・多角的に探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充し、修士論文を執筆させます。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準に基づき客観的に評価します。
- (2) リハビリテーション科学特別研究における修士論文執筆、発表、口頭試問を通し、学生の主体性・能動性、探求する力を客観的に評価します。
- (3) 各科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

大学院保健学研究科【博士前期課程】ディプロマ・ポリシー

保健学研究科(博士前期課程)では、人材養成の観点に立った本研究科の教育目標に沿って定めた学位授与の方針(ディプロマポリシー)を修得した者に対して、それぞれの学位を授与します。

【看護学領域】

1. 知識・理解の修得

- ・専門領域をより深く理解できるための高度な専門知識
- ・専門領域と密接に関連する他領域の専門知識に関する包括的・多角的な理解

2. 当該領域固有の能力の修得

- ・臨床・地域保健医療活動の場において、根拠をもって看護を実践できる能力
- ・臨床・地域保健医療活動の場において、問題の本質を見抜き、倫理的・科学的に分析し解決できる能力
- ・保健・医療・福祉の教育機関において、教育・研究を実践する能力

3. 汎用的能力の修得

- ・さまざまな状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる能力
- ・他領域の専門職者と連携して保健医療の発展に寄与する能力

【放射線技術科学領域】

1. 知識・理解の修得

- ・高度な専門知識と技術を基盤として理論や確立途上のエビデンスを追求し、それに対応した実践や新しい技術の開発ができること

2. 当該領域固有の能力の修得

- ・生体からの情報について、生物学的、化学的及び物理学的手法を駆使して評価解析できる能力
- ・評価解析結果を診断や治療へ応用発展できる能力
- ・保健・医療・福祉の教育機関において、教育・研究を実践できる能力

3. 汎用的能力の修得

- ・さまざまな状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる能力
- ・さまざまな専門職の連携によりチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できる能力

【生体検査科学領域】

1.知識・理解

- ・生体検査科学における高度な知識と技術
- ・病態と細胞レベル・分子レベルにおける事象との関連についての理解
- ・異分野の研究領域への関心と理解

2.当該分野固有の能力

- ・高度な専門知識と技術を基盤として理論や確立途上のエビデンスを追求し、それに対応した実践や新しい技術を開発できる能力
- ・生体成分の新たな機能解析や検査技術開発に向けた研究に取り組める能力

3.汎用的能力

- ・倫理的な思考、問題解決ができる能力
- ・国際社会で活躍できるコミュニケーション能力
- ・医療における倫理と責任を強く自覚した保健医療分野のリーダーとしての能力

【総合リハビリテーション科学領域】

1.知識・理解

- ・リハビリテーション科学領域に関する専門的知識の体系的理解と、専門分野をより深く理解するための高度専門知識の修得

2.当該分野固有の能力

- ・人間の運動から生活活動、障害予防までの広い範囲で障害を捉える視点
- ・リハビリテーション科学領域で扱う評価・治療、障害予防における科学的基盤を確立するための研究に取り組む能力
- ・健康や障害に及ぼす生活環境要因を具体化し、その因果関係の仕組みを探究して、説明できる能力

3.汎用的能力

- ・さまざまな状況において高度なコミュニケーション、プレゼンテーションのできる能力
- ・保健医療の現状改善を図る実践能力を持って、地域の保健医療に貢献できる高度専門職としての役割を担い、リーダーシップを発揮できる能力

大学院保健学研究科【博士後期課程】アドミッション・ポリシー

◎保健学専攻

1 概要

(1)基本理念

保健学は、人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ、人々の健康について探究し、健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)では、この学際的な学問領域を進歩・発展させるとともに、保健学の領域における教育と研究を通して、その成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

(2)教育目標

①研究者としての能力開発

保健学に係わる学際的な研究をエビデンスの探究という視点から専門の枠を超えて実践し、その結果を世界に向けて発信できる人材を育成します。

②教育者の育成

大学及び大学院において教育指導に寄与でき、地域社会において科学的な方法論に基づいた健康教育を実践できる人材を育成します。

③高度な専門知識・技術を身に付けた指導者の育成

高度な専門知識と技術を身に付け、チームの指導者として課題を選択・研究し、その解明に寄与できる人材を育成します。

④地域保健医療活動推進能力の育成

地域保健活動の場において指導的役割を果たす立場の者を教育・指導・支援できる人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・人々の健康を保持増進し、生活の質の向上に向けた独創的・学際的な研究を自立的に進められる学生
- ・高度な専門性、倫理性を身に付け、自らの専門性を深化・発展させることのできる学生
- ・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させる上で不可欠な、“エビデンスの探究・蓄積”ができる学生

- ・未解明の問題のエビデンスを探究するため、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開できる学生

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

- ・高度な専門知識と技術を基盤として理論やエビデンスを追求するための基礎的知識と方法論
- ・理論やエビデンスに対応した実践の展開や新しい技術を開発するための基礎的知識と方法論
- ・多専門職の連携によるチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できるための基礎的知識と方法論

4 入学者選抜方針

総合的学力及び研究に対する探求心、意欲等を評価するために、筆記試験(英語)及び口述試験の結果を総合して選抜します(提出書類は、口述試験の基礎資料として使用します)。

【看護学領域】

1 概要

看護学の幅広い学識と高度な専門知識と倫理性を深め、教育・研究者として独創的・学際的な研究を自律的に進め、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けて科学的根拠に基づき実践できる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・看護学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の保持増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
- ・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
- ・論理的思考力を基に、学際的な研究に自律的に取り組み、看護学の発展に寄与できる人

【放射線技術科学領域】

1 概要

人間の“生命活動”に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追求し、サイエンスとしての放射線技術科学の更なる深化を図るとともに、今日的な保健医療の課題に対して、職種の枠を越えて相補的に連携・協働し、特定領域に縛られない新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・放射線技術科学に関わる教育・研究者を目指す人
- ・高度な専門知識と技能を持った臨床研究者を目指す人
- ・先端的な放射線技術科学の知識及び技術を学びたい人

【生体検査科学領域】

1 概要

分子、細胞レベルから個体に至る幅広い観点で生命現象を理解し、広範な生命科学領域における多様な問題を解決するための独創性と実行力を兼ね備えた人材を育成することを目的としています。このような人材育成を目的に、生命現象の分子レベルでの理解を基盤として、生体機能及び病因・病態解析に係る教育・研究を行います。

2 求める学生像

- ・生体検査科学に関連する教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
- ・保健・医療の現場において、高い倫理観と高度な専門知識を持った実行力のある人
- ・指導的・専門的立場から課題を見つけ、グローバルな観点から自立的な研究を行うことができる人

【総合リハビリテーション科学領域】

1 概要

理学療法学及び作業療法学を基盤としたリハビリテーション科学領域の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性をさらに深め、人々の健康の維持・増進、運動・精神障害の予防と軽減、生活の質(QOL)の向上を目的とした科学的根拠に基づくリハビリテーション(Evidenced Based Rehabilitation)を実践・発展させていく上で不可欠な、“未解明のエビデンスの探究・蓄積”ができる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

- ・リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の維持・増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
- ・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
- ・既存概念にとらわれない発想と論理的思考力を基に、学際的な研究に自律的に取り組み、保健学を発展させていける人

1.教育課程の編成・実施

(1)共通科目

共通科目は、エビデンスの探求と専門の垣根を越えた連携・協働の意義や方法論の修得を目的としています。

(2)専門科目

専門科目は、博士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属分野の特講・特講演習・特別研究で構成しています。

【看護学領域】

1.教育課程の概要

看護学の幅広い学識と高度な専門知識と倫理性を深め、教育・研究者として独創的・学際的な研究を自律的に進め、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けて科学的根拠に基づき実践できる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

2.教育・学習方法

- (1)主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、エビデンスの探求のための研究手法を習得させます。
- (2)看護学の高度な専門知識の修得(特講)、修得した知識体系を省察し批判的に分析する応用能力の修得(特講演習)、研究計画に従って実施し、探求し、新たな知見を論理的に論文化する能力の修得(特別研究)をとおり、独創性、創造性、新奇性のある研究課題に主体的に取り組み、研究倫理に従って探求し、研究成果を論文にするための能力の修得(特別研究)を段階的、能動的に学習させ、博士論文を執筆させます。

3.学習成果の評価

- (1)カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる成績評価基準に基づき客観的に評価します。
- (2)科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

【放射線技術科学領域】

1.教育課程の概要

人間の“生命活動”に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、サイエンスとしての保健学の更なる深化を図るとともに、今日的な保健医療の課題に対して、職種を越えて相補的に連携・協働し、特定領域に縛られない新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成を目指しています。

2.教育・学習方法

- (1)主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、エビデンスの探求のための研究手法を習得させます。
- (2)放射線技術科学の高度な専門知識の修得(特講)、修得した知識体系を省察し批判的に分析する応用能力の修得(特講演習)、研究計画に従って実施し、探求し、新たな知見を論理的に論文化する能力の修得(特別研究)をとおり、独創性、創造性のある研究課題に主体的に取り組み、研究倫理に従って探求し、研究成果を論文にするための能力の修得(特別研究)を段階的、能動的に学習させ、博士論文を執筆させます。

3.学習成果の評価

- (1)カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる成績評価基準に基づき客観的に評価します。
- (2)科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などを総合的に平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。
- (3)主体的に研究を行う能力の評価は、博士論文審査会及び発表会等において、プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を審査するとともに独自性の発露、研究倫理を含めた計画能力や博士論文の執筆力等を合わせて総合的に判断します。

【生体検査科学領域】

1.教育課程の概要

生体分子の機能や病態の解析について独創的で質の高い研究を遂行することに意欲があり、高度な専門性と倫理観を有し、人類の健康と幸福に貢献するために、生体検査科学の領域で国内外で活躍できる教育・研究者の育成を目指した教育課程を編成しています。

2.教育・学習方法

- (1)生体検査科学の領域における研究課題を見出す能力を培うために、学術論文の精読、プレゼンテーションや討論を積極的に取り入れた指導します。
- (2)主体的に研究ができるように、指導教員は研究指導や論文執筆・発表の指導を適切に行い、研究遂行能力やプレゼンテーション能力を涵養することを通じて見通す力と解決する力を培い、エビデンスの探求のための研究手法を習得させます。
- (3)自ら見出した研究課題の解決に向けて能動的に探究を進め、その成果を表現する能力を身に付けさせるため、学生の主体的な研究遂行への適切な指導を行うことにより、博士論文を執筆させます。

3.学習成果の評価

- (1)カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標と成績評価基準に則り客観的に評価します。
- (2)博士論文発表会や博士論文審査会等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を含め、研究遂行能力や研究倫理の獲得、さらには関連領域における論文内容の国際的な学術的位置づけなどを総合して、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価します。

【総合リハビリテーション科学領域】

1.教育課程の概要

理学療法学及び作業療法学を基盤としたリハビリテーション科学領域の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性をさらに深め、人々の健康の維持・増進、運動・精神障害の予防と軽減、生活の質(QOL)の向上を目的とした科学的根拠に基づくリハビリテーション(Evidenced Based Rehabilitation)を実践・発展させていく上で不可欠な、“未解明のエビデンスの探究・蓄積”ができる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

2.教育・学習方法

- (1)共通科目を1年次に配置するとともに、リハビリテーション科学特講・特講演習・特別研究を1年次から系統的に配置し、夜間開講と遠隔授業を導入しながら修了までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促します。
- (2)リハビリテーション科学特講・演習をとおり、主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行い、エビデンスの探求のための研究手法を習得させます。
- (3)リハビリテーション科学特別研究をとおり、自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充し、博士論文を執筆させます。

3.学習成果の評価

- (1)学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準に基づき科目ごとに策定し、学習到達度を客観的に評価します。
- (2)リハビリテーション科学特別研究における博士論文執筆、発表、口頭試問を通し、学生の主体性・能動性、探求する力を客観的に評価します。
- (3)各科目の学習成果は、筆記(口述)試験、レポート、授業中の発表や質疑応答などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示します。

大学院保健学研究科【博士後期課程】ディプロマ・ポリシー

保健学研究科(博士後期課程)では、人材養成の観点に立った本研究科の教育目標に沿って定めた学位授与の方針(ディプロマポリシー)を修得した者に対して、学位(保健学)を授与します。

【看護学領域】

1.知識・理解の修得

- ・看護学領域に関する高度な知識と技術の体系化
- ・看護学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術
- ・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術
- ・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識と技術

2.当該分野固有の能力の修得

- ・看護学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力
- ・看護学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力
- ・看護学・保健学の“エビデンス”に基づいた高度な医療実践を行う能力
- ・解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する能力
- ・保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす能力

3.汎用的能力の修得

- ・看護学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力
- ・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考能力
- ・看護学領域における研究成果をとおして、看護学・保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する能力

【放射線技術科学領域】

1.知識・理解の習得

- ・放射線技術科学領域に関する高度な知識と技術の体系化
- ・放射線技術科学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術
- ・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術
- ・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識と技術

2.当該分野固有の能力の修得

- ・放射線技術科学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力
- ・放射線技術科学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力
- ・科学的根拠に基づいた保健学を实践・発展させてゆく上で不可欠な、未解明の“エビデンス”を探究・蓄積できる能力
- ・エビデンスの探究に向け、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させる能力

3.汎用的能力の修得

- ・放射線技術科学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力
- ・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考能力
- ・放射線技術科学領域における研究成果をとおして、人間の“生命活動”に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、放射線技術科学・保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する能力

【生体検査科学領域】

1.知識・理解

- ・生体検査科学領域における教育・研究者として必要な高度専門知識
- ・生体検査科学領域における国際的スタンダードとなっている知識や技術
- ・学際的な研究に対応できる知識や技術

2.当該分野固有の能力

- ・種々の研究成果について客観的かつ批判的に評価できる能力
- ・生体検査科学領域における教育・研究を指導できる能力
- ・科学的根拠に基づいた保健学を实践・発展させていく上で不可欠な、未解明の“エビデンス”を探究・蓄積できる能力
- ・“エビデンス”の探究に向けて、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働
- ・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させる能力

3.汎用的能力

- ・自立した教育・研究者として社会に貢献できる能力
- ・英語によるコミュニケーション能力を涵養し、国外研究者と討論できる能力
- ・高い倫理観と強い責任感を有する生命科学者として、研究成果を国際的に発信できる能力

【総合リハビリテーション科学領域】

1.知識・理解

- ・リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術の体系化

- ・リハビリテーション科学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術
- ・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術
- ・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識

2.当該分野固有の能力

- ・リハビリテーション科学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力
- ・リハビリテーション科学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力
- ・リハビリテーション科学の“エビデンス”に基づいた高度な医療実践を行う能力
- ・解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する
- ・保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす能力

3.汎用的能力

- ・リハビリテーション科学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力
- ・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考力を持ち、プレゼンテーションのできる能力
- ・リハビリテーション科学領域における研究成果をとおして、保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与するための技術と能力

*カリキュラム改正により、科目名が一部変更になっています。



弘前大学

HIROSAKI UNIVERSITY 2024

医学部 保健学科

School of Health Sciences

大学院 保健学研究科

Graduate School of Health Sciences

■弘前大学問合せ先一覧

本学部案内の内容について質問等がある場合は、下記にお問合わせください。

◎授業内容・カリキュラムについて

医学部保健学科学務担当 TEL 0172-39-5911

◎入学試験について

入試課 TEL 0172-39-3122・3123

◎学生寮について

学生課課外教育担当 TEL 0172-39-3107・3115

◎奨学金・授業料等免除について

学生課経済支援担当 TEL 0172-39-3117・3135

■公式HP・SNS情報



弘前大学HP



保健学科HP



保健学科・心理支援科学科
Twitter



保健学研究科
Twitter